

複数のPCを利用されているなら、 高速・安定・管理が楽なサーバーを活用しよう

■「サーバーは、うちの会社には難しそう」と思う時代は終わりました

DX への取り組みは、大企業から中小企業や中小規模の組織・団体に広がっています。中小企業においては71.9%がDXの必要性を理解し、業務の効率化、コスト削減、データに基づく意思決定に取り組もうとしています*。「アナログで行っていた作業やデータのデジタル化」「文書の電子化・ペーパーレス化」へ取り組みを進めています。それには、サーバーを最大限に活用し、必要なドキュメントやデータにPCから容易に安全にアクセスできるようにすることで、社員の生産性や業務効率を上げることが重要となります。

以前は、サーバーは、専任のIT管理者がいないと使えなかった時代もあったため、サーバーの導入に躊躇する企業も多くありました。しかし、サーバー用OSとして、Windows Server 2022を利用することで、多くのユーザーが使い慣れているWindowsと同様の画面の操作で、初期設定や利用用途の設定など、誰でも容易に操作できるようになり、導入と運用のハードルが大きく下がっています。

出典(*) 中小企業のDX推進に関する調査(2023年) 独立行政法人 中小企業基盤整備機構
https://www.smrj.go.jp/research_case/research/questionnaire/favgos00000k9pc-att/202310_DX_report.pdf

■ PCとサーバーのワンストップサービス

サーバーの運用・管理は、PCと同じように、アクセスや稼働状況の監視、セキュリティ対策など業務が必要です。さらに、障害が発生した場合は、同様に問題の切り分けを行い対応する必要があります。デル・テクノロジーズでは、サーバーとPCをワンストップでサポートし、お客様の運用・管理業務を支援するサービスを提供しています。このサービスを使うことで、管理にかかる手間やコストを丸ごと節約でき、安定した運用を行うことが可能になります。

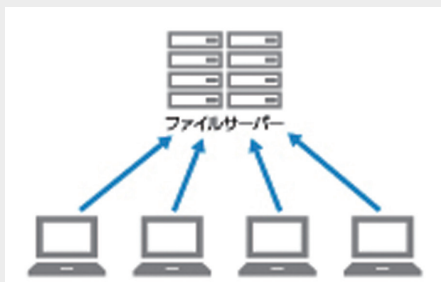
■ クラウドとサーバーの選択

昨今、オンプレミスかクラウドが二者択一のように騒がれていますが、ITインフラは手段であってゴールではありません。事業環境にあわせて、どのようにITインフラを構築するかが重要です。コスト削減を目的にして、パブリッククラウドを利用したものの、想定以上にコストがかかってしまうお客様も増えています。コスト増加の要因の1つとして、クラウドサービスへの通信料があります。クラウドサービスではネットワーク転送料が設定されていることが一般的です。動画ファイルの共有や、データベースなどのデータの大きなアプリケーションをクラウド上で利用する場合は、想定以上のネットワーク転送料がかかります。さらに、ネットワークアクセスの遅延リスクもあります。「オンプレミスかクラウドか」ではなく、用途に合わせてオンプレミスとクラウドを組み合わせた最適なシステム構築が必要となります。

ファイルサーバー：ファイルをみんなで共有できる

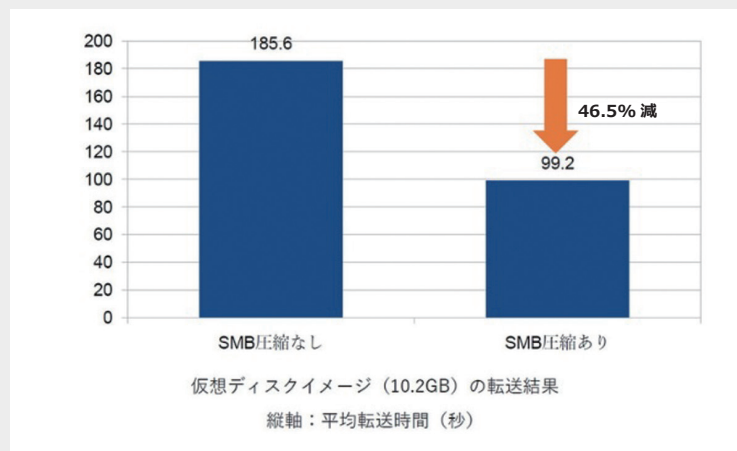
「あのExcelファイル、持っている?」「その注文データ、USBにコピーしてくれる?」「異動してきた山本さんが田中さんの案件管理フォルダーにアクセスしたいから、アクセス権をつけてもらえる?」とファイルのやり取りをするための会話がよく行われているいませんか?

しかし、USBを紛失するなどデータ漏えいの危険性もあります。また、従業員の異動に合わせて、アクセス権を設定することは、作業が複雑になります。そこで、従業員が業務に合わせて、よく使うファイルをサーバー上に保存して、アクセス権を設定しておけば、必要なときに必要なデータを使うことができます。



Windows Server 2022とWindows 11なら安全・性能向上

最新OSであるWindows Server 2022ではファイルサーバーの機能を強化しています。特に、Windows 11との組み合わせにおいては、ファイルへのアクセスの際のデータ通信量を圧縮し、通信を高速化し、セキュリティを高めています。調査によれば、最大約2倍の転送速度が向上していることが証明されています。さらに、暗号強度も民間が利用できる最も強固なAES256ビット暗号を利用して通信されるため、安心して安全にアクセスできます。



ご参考 <https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/topic/special/1421415.html>

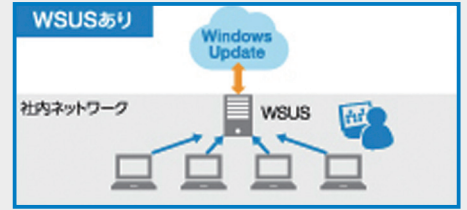
●製品の購入には当社の販売条件 (<https://www.dell.com/learn/jp/ja/jpcorp1/terms-of-sale>) または締結済みの再販売契約書が適用されます。
 ●Dell Technologies、Dellの商標については、Dell Technologies Inc. 及びその関連会社の登録商標です。
 ●Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
 ●Windows、Windows Server は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 ●その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
 ●本カタログに使用されている製品写真は、出荷時のものと異なる場合があります。
 ●構成や仕様により、提供に制限がある場合があります。
 ●本書の記載は2024年1月30日現在のもので、記載されている仕様・価格・内容は予告なく変更される場合があります。

多くのPCを使用されているなら、 高速・安定・管理が楽なサーバーを活用しよう

WSUS (Windows Server Update Services) : Windows 11 PCの運用管理を劇的に改善！

Windows 11 では、セキュリティ問題や製品の不具合を修正するために毎月1回以上提供される品質更新プログラム (Quality Updates) と年に1回提供される機能更新プログラム (Feature Updates) の2種類の更新プログラムが提供されています。これら更新プログラムの適用 (Windows Update) をいかに効率的に行うかが、Windows 11 PCの運用を考える上で重要なポイントです。

Windows Server 2022の標準機能であるWSUSを利用すると、WSUSサーバーだけがインターネットからマイクロソフトのサイトにアクセスし、更新プログラムをダウンロードします。つまり、従業員のPCにはWSUSサーバーから更新プログラムを配信するため、ネットワークを圧迫しません。そして、管理者は、更新プログラムを適用するタイミングを制御することが可能です。例えば、管理者は、月末は営業部門が受発注処理を行うために、更新を月初に設定する、あるいは月初は経理が忙しいために月末に更新を設定するなど、役割や場所ごとに柔軟な管理が可能になります。また、各PCの更新プログラムの適用状況をダッシュボードで一覧にしたり、エクセルやPDFファイルでダウンロードすることもできるため、従業員のPCの状況把握が容易です。



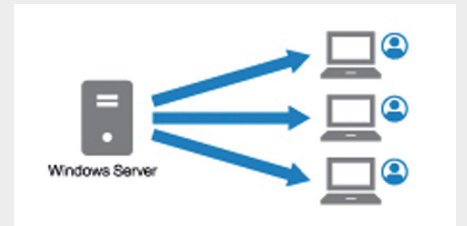
Active Directory : ユーザーもPCもサーバーから簡単に管理できる

専任のIT管理者がほとんどいない企業・団体では、従業員のアカウントごとにPCを管理するのは大変です。各従業員が他の従業員のPCにアクセスするには、各PCにアクセスしたい従業員のアカウントを作成する必要があります。また、退職者が出た場合は、各PCからその退職者のアカウントを削除しなければなりません。社内システムには、例えば人事部の情報には他部署からのアクセスを制限して、人事部の社員にしかアクセスさせたくない場合もあります。そのためには権限にあわせてアクセス権の設定をPCごとに設定する必要があります。

数人の従業員と数台のPCであれば設定もそれほど負担ではありませんが、従業員が増え、管理するPCも10台、20台と増えてくるとIT管理者は従業員のアカウントの管理だけで忙殺されてしまいます。

Windows Server 2022の標準機能であるActive Directoryを利用すれば、従業員のアカウントの追加や変更を管理でき、アクセス権の付与や制限、削除も簡単に行うことができます。例えば退職した従業員のアカウントを削除すれば、アクセス権を削除し忘れるなどのうっかりミスといったセキュリティ上の不備を防ぐことが可能です。

Active Directoryを活用して、従業員のアカウントやPCを効率的に管理しましょう。



「万全のサポート」を支えるデル・テクノロジーズのサポート体制

サーバーとPCの両方にかかわるインフラ障害が発生した場合、サーバーとPCのサポート窓口が2つに分かれていた場合どうなるでしょうか？お客様はサポートセンター間でたらい回しにされるリスクを抱えることになります。デル・テクノロジーズは、国内のサポートセンターから、法人向けのサーバーを含めたインフラ製品とPCに対してワンストップ保守を提供し、障害切り分けが困難な問題が発生した場合にも、より迅速かつスムーズな問題解決を支援します。

デル・テクノロジーズは、豊富な技術知識を有するデル・テクノロジーズの正社員で構成された国内自営のコールセンターである宮崎のカスタマーセンターと障害発生から保守サービスまでの対応をリアルタイムに監視する東京のサービスコマンドセンターを起点に、専門のサポートスタッフが受付からトラブル解決まで一貫して行います。オンサイト保守が必要な場合は、全国の保守サービス拠点に配置されたエンジニアが即座に対応に当たり、全国18カ所の保守部品配送拠点に配置した保守部品を利用し迅速にパーツ交換も行える体制になっています。



カスタマーセンター (宮崎)

- リモートエンジニアは100%正社員対応
- 自社の国内センターで24時間365日サポート
- 4時間以内のオンサイト対応・全国カバー率95%*1
- サポートコールお客様満足度91.1%*2
- サービスコマンドセンター (東京)にて、人員配置及び部品在庫を徹底管理

*1 対応時間はサポート契約内容により異なります。 *2 デル・テクノロジーズ調べ



サービスコマンドセンター (東京)

注: 保守期間満了前にお手続きいただく場合は延長契約、保守期間終了後にお手続きいただく場合は再契約となり、価格が異なります。なお再契約の場合、保守にご加入でなかった期間に発生した障害につきましては有償修理となります。出張修理などの想定外の出費が発生します。避つての保守適用とはなりませんのでご注意ください。

● 製品の購入には当社の販売条件 (<https://www.dell.com/learn/jp/ja/jpcorp1/terms-of-sale>) または締結済みの再販売契約書が適用されます。
 ● Dell Technologies、Dellの商標については、Dell Technologies Inc. 及びその関連会社の登録商標です。
 ● Intel、インテル、Intelロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。
 ● Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
 ● その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
 ● 本カタログに使用されている製品写真は、出荷時のものと異なる場合があります。
 ● 構成や仕様により、提供に制限がある場合があります。
 ● 本書の記載は2024年1月30日現在のもので、記載されている仕様・価格・内容は予告なく変更される場合があります。



Windows Server 2022:
Modernize to boost your business